

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年十月度 入選句（投稿総数二千四句・小中学投句数千二百五十六句）

特選

選者 白井 静子

秋の夜新しい本あけてみる 大垣市 三輪 祐果(小六)

秋の夜長。あなたはどのように過ごしていますか。ゲーム、テレビなど、楽しいことがいっぱいでしょう。

この句の作者は新しい本を開いたのですね。「新しい」というだけでドキドキしてきます。それが本なのですから、その気持ちもひとしおです。新しい物語を開くワクワク感が伝わってきます。読み始めるとなかなか途中でやめられません。秋の夜は、そんな読書にぴったりの時間です。

秋の山目標たかくのぼりきる 大垣市 小林 虎士郎(小六)

秋の山は赤や黄などの葉が美しく、低い山なら頂上まで登ってしまうこともできます。しかし、高い山ではそうもいきません。紅葉の美しい七合目まで、見晴らしのよい峠までと、目標を決めて登るのでしょうか。また、六年生にとつて秋は充実の秋。学習や仲間づくり、行事など、やりきるべき事柄の多い時期でもあります。作者はそれらの目標を高く立て、「ようし、やりきるぞ。」と決意を新たにしている姿とも重なります。「のぼりきる。」と言い切ったところに、作者の強い意志が感じられます。

流れ星ゆっくりながれてくれたなら 大垣市 青木 琉空(小二)

流れ星に願うと願いが叶うと言われています。ですから、流れ星に願いを託した人もたくさんいることでしょう。でも、流れ星はあつという間に消えてしまい、願い事が途中で止まってしまいます。作者は「ゆっくり流れてくれたら、いっぱい願い事ができるのに」と思ったのでしょう。「なら」という終わり方で、作者の「くするのに」という期待感がよく伝わってきます。

秀逸

散歩道ころんで見えた 雲 大垣市 安田 華優(小六)

にわさきにコスモスひとつあかくさく 大垣市 棚橋 万桜(小二)

秋刀魚焼くにおいただよう家の中 大垣市 那須 春仁(小五)

ひがんばんかなならずここにさくんだね 大垣市 藤田 光聖(小二)

いもうとのおんぶのせ中あかとんぼ 大垣市 西川 大貴(小二)

もう一杯新米ほかほかおかわりだ 大垣市 糺矢 みう(小三)

すずむしが草にかくれてすずならず 大垣市 上田 朝陽(小四)

きつつきがだれかいないかたずねてる 大垣市 柴田 悠葵(小五)

とんぼたち公園の中で会ぎ中 大垣市 伊藤 日菜(小五)

夕ぐれの真つ赤な空に手をかざす 大垣市 渡邊 美涼(小六)

入選

かたつむりすのまたじょうをのぼってる 千葉県我孫子 ひろかわ いろは六才
 妹と毎日あそべる夏休み 大垣市 大久保 実咲(小三)
 アサガオはやおきだけどすぐひるね 大垣市 井上りおん(小一)
 みの虫さん一人ぐらしはどうですか 大垣市 富永 みき(小二)
 いねのほが今年も深くおじぎする 大垣市 松崎 望来(小五)
 あきまつりハッピーのサイズかわったよ 大垣市 森本 彩乃(小二)
 あかとんぼはたけをまわっておにごっこ 大垣市 木村 妃咲樂(小三)
 もみじのは妹の手とにているな 大垣市 荒川 美優(小三)
 朝顔のきれいな花は朝げんてい 大垣市 安藤 凜紅(小五)
 赤トンボ私とおそろい赤めがね 大垣市 飯田 真依(小六)

入選

夏の鳥風にたなびく旗こして 揖斐郡池田町 駒月 善樹(中三)
 あじさいの花がひらいて夏がくる 大垣市 西村 武琉(小五)
 かまきりもいっしょに回るたらい船 福井県吉田郡 伊藤 凜菜(小三)
 歩いてもしわし雲たち追ってくる 大垣市 安田 あずみ(小五)
 虫の声ここにいろよとおしえてる 大垣市 川瀬 未祐(小一)
 かぼちゃがねなかよくならびおしゃべりだ 大垣市 大橋 叶夢(小一)
 たから物ふえたよわたしの運どう会 大垣市 小林 奈央(小三)
 どんぐりがぼうしをかぶって遊んでる 大垣市 いとう たいが(小三)
 わたり鳥季節をつれてやってくる 大垣市 田口 礼華(小五)
 大空をぶたいに泳ぐいわし雲 大垣市 古田 奈央(小六)

選者吟

いまだぎの案山子モダンな二人連れ

静子